

昭和興産インドネシア

樹脂の輸入販売を本格化



矢尾智 社長

昭和興産インドネシア(矢尾智社長)は、昨年9月から本格的な営業開始以降、インドネシア国内で各種ケミカル関連製品の輸入販売を展開。日用品や繊維、塗料向けなどを中心に実績を積み上げている。今後の成長に向けて、来年をめぐり樹脂販売を本格化するほか、輸出事業の立ち上げも狙う。

昭和興産インドネシアは、親会社の昭和興産および昭和興産香港の出資により、昨年6月に現地法人として設立。プカン県デルタマス地区に本社オフィスを構え、9月から営業活動を開始した。

取り扱い品目は、繊維向けの界面活性剤をはじめ、ウレタン原料、塗料原料、衛生製品関連素材、ゴム添加剤、樹脂難燃剤など。チレトン地区に物流倉庫を確保したほか、本社オフィスにも小規模倉庫を設置。プカンやカラワン地区など、需要家により近い位置に物流拠点を配置してタイムリーな供給体制を整えている。

現地法人立ち上げから1年を迎えるなか、今後の成長分野の一つに位置付けるのが、樹脂の輸入販売だ。多くの樹脂が輸入ホジションにあるインドネシアにおいて、ポリオレフィンやステレン系樹脂、コンパウンドといった製品の輸入販売を視野に入れる。来年の本格立ち上げを目指して市場調査を進めており、主に電線や一般容器、家電など成形品向けの需要を取り込む考え。さらに、パッケージ向け樹脂フィルムや、セルロース製品の販売も視野に入れる。

また、輸出ビジネスにも着目しており、主にインドネシアの食品関連素材を日本市場に供給すべく、事業化プロジェクトをスタート。来年前半の開始を計画している。

事業ポートフォリオの拡大に合わせ、来年をめぐり営業・経理を担当する現地スタッフの増員を視野に入れるほか、タンケラン地区といった需要家が集まるエリアに第2の物流倉庫の設立も検討する。